

a 校訓	自主・友愛・創造	a 学校教育目標 自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成	(育成を目指す資質・能力) 「主体性」「協働性」「創造性」
------	----------	---------------------------------	----------------------------------



評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画	
	b 中期経営 目標	c 短期経営目標	d 達成のための方策	e 評価指標	f 目標 値	7月	1月	h 達成 度	i 評価	j 結果と課題の説明 ○:成果 ▲:課題	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成 値	g 達成 値				イ	ロ	ハ		
主体的 対話的で深い学び カリキュラムマネジメント 社会に開かれた教育課程	学習の個性 化と協働的 な学びの充 実	総合的な学習の時間「ま なびのとびら」の充実 【教育研究部】	・様々な体験から得た生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性に応じ、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。	（生徒質問紙） 『『まなびのとびら』では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。』肯定的回答の割合	80% 以上	88.7 %	87.2 %	109.0 %	A	○どの学年も、自らの興味・関心に応じた課題に取り組み、発表会で自分の考えを述べることができた。 ▲個別最適（個性化・個別化）の理念が、教科等外の生徒支援等に反映されていないことがある。	○			・地域の人材・資源を、今後も有効に活用してもらいたい。	・教職員で再度、個別最適（個性化・個別化）の理念の共有を図る。
		特設授業「まなびスペシャル」の充実 【教育研究部】	・本物（専門家）との出会いで社会を意識し、自らの生き方を見つめる学びを推進する。（2回/年間）	（生徒質問紙） 『『まなびスペシャル』は、自らの生き方や、自分自身を見つめる機会となりましたか。』肯定的回答の割合	80% 以上	88.6 %	83.4 %	104.3 %	A	○生徒の満足度が高く、多様な生徒の学びに対応できている。 ▲学校が文化とまなびの拠点となれるよう、保護者・地域の方の参加者を増やす。	○			・本物に触れる機会は、生徒の成長に非常に重要である。	・積極的に地域や保護者に情報発信をする。
		異文化間交流活動の充実 【教務部】	・多様な国の人々との交流を通し、世界の人々が、国を超えて理解しあい、協力し、世界平和を実現する教育を推進する。（TW・TH・FR）	（生徒質問紙） 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしますか。」肯定的回答の割合	80% 以上	72.8 %	70.7 %	88.4 %	B	○1年アートマイル交流では、テーマに沿った両国生徒の交流ができている。 ▲持続可能な生徒交流について、引き続き方策を検討する。	○			・交流については、相手方と継続的に交流出来たらよい。	・アートマイル活動で、アウトプットまでの充実を図る。
		生徒の自治的な活動の充実 【生徒指導部】	・生徒会行事や体育大会、まなびの発表会は、生徒が主体となって成功を目指し、多くの生徒と共に感動を味わいながら企画・運営を実践的に学ぶ教育を推進する。	（生徒質問紙） 「学校がより良い学校になるために活動したいと思いますか。」肯定的回答の割合	80% 以上	78.1 %	84.2 %	105.3 %	A	○まなびのとびらや学校行事では、積極的な役員立候補がある。 ▲主体的に取り組めない生徒への指導支援の充実により、すべての子供たちの可能性を引き出す必要がある。	○			・生徒たちの生き生きとした姿を見ることが出来てよかった。	・主体的な取り組みえない生徒への指導の個別化を図る。
	指導の個別 化と協働的 な学びの充 実	学びの選択肢のある授業の充実【教育研究部】	・生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。	（学力調査） 通過率が全国平均以上の生徒の割合	55% 以上	46.0 %	46.0 %	83.6 %	B	○「学ぶこと」の共有ができつつある。 ▲基礎的・基本的な学力の二極化と確実な学力定着が課題である。	○			・学力の二極化を改善していただきたい。	・標準学力調査結果の丁寧な分析と次年度への引継ぎを行う。
		単元内自由進度学習に係る研究推進と実施 【教育研究部】	・単元開始時に自ら全体の学習計画を立て、プリントやICT等により自立的な個別学習を行うことを通して、自らの学びをモニターしながら、メタ認知や学習を調整する力を育成する。	（生徒質問紙） 「授業では、自分に合った学習活動や学習課題を選ぶことができますか。」肯定的回答の割合	80% 以上	82.6 %	85.7 %	107.1 %	A	○計画に基づき全学年で1単元の「単元内自由進度学習」を実施し、生徒の主体的な学びが進んでいる。 ▲基礎的・基本的な知識技能の確実な定着へつながら自由進度学習に向けて研究を推進する必要がある。	○			・遅れた子へのフォローをどうしていくのが重要である。	・これまでの指導・助言を踏まえ、着実な定着について協議を深め共有する。
		「まなび Challenge」の充実 【教育研究部】	・定期試験期間中の6時限目は、自ら立てた各教科の目標達成に向けて、自分なりの計画と方法で学びを進める力を育成する。	（生徒質問紙） 『『まなび Challenge』では、試験に向けて、自分で考え、取り組んでいますか。』肯定的回答の割合	80% 以上	87.9 %	90.2 %	112.8 %	A	○単元内自由進度学習と連鎖したまなびとなっている。 ▲基礎的・基本的な知識技能の確実な定着へつながら研究が必要である。	○			・自ら計画的に学習に取り組むことで、学力が定着するものと考ええる。	・学力に課題のある生徒への個別支援の更なる充実を図る。
		手帳による生活習慣・学習習慣の確立 【教務部】	・生活や学習における目標を設計し、定期的に見直しをすることにより、努力を成果に結びつけ、結果、自分に自信を持ち、自ら学ぶ力を身に付けるよう指導・支援する。	（生徒質問紙） 「手帳を使うことにより、毎日のやることや、次の一週間の見通しを持つことができていますか。」肯定的回答の割合	80% 以上	69.0 %	58.9 %	73.6 %	C	○課題や「やるべきこと」「やりたいこと」について自分なり工夫して活用している。 ▲活用状況に個人差があり、学年による差も大きい状況である。主体的・計画的な行動となるよう、引き続き支援の工夫が必要である。	○			・手帳は全員がきちんと記入し、先生が定期的に見ていくことが重要と考える。	・手帳を使用するメリット、身に付けることのできる力、意義等を生徒と共有する。
	生きる力の育成	深い生徒理解と実証的事実による適切な学びの指導・支援 【生徒指導部】	・日常の観察による深い生徒理解とデータに基づいて教育を分析し、得られた知見を改善に活かしながら指導・支援する。	（資質・能力と教育活動の教育効果を定量化する評価ツール） 「主体性」「協働性」「創造性」の学年目標値を越えた割合 1学年:150、2学年:165、3学年:180	55% 以上	56.3 %	57.2 %	104.0 %	A	○エビデンスをもとに、教育効果測定を行いながら、個別の状況把握ができている。 ▲特に指導支援が必要な生徒の確実な把握と共有、更なる指導の個別化を図る必要がある。	○			・客観的データを基にした、生徒一人一人に応じた指導が大切である。	・特に個別の指導支援が必要な生徒への取組の充実を図る。
		業務改善・働き方改革の推進	勤務時間外在校時間の縮減 【総務部】	・自らの業務を整理し、先を見通して計画を立て、優先順位を決めて業務に取り組むことで、勤務時間外在校時間を縮減する。 ・生み出された時間でワークライフバランスを取るとともに、生徒と向き合う時間の増加につなげる。	（入校退校時刻記録） 一か月の勤務時間外在校時間 45 時間以下の職員の割合	55% 以上	60.0 %	56.9 %	103.5 %	A	○一か月の勤務時間外在校時間 45 時間以下の職員は、のべ 153 人中 87 人で 56.9%であった。 ○経験のある職員が、先を見据え、計画的に業務に取り組む姿を見せることで、経験の浅い職員も早めに業務に取り組めている。	○			・先生方の負担を極力減らしながら、教育活動に取り組んでもらいたい。
最上位目標・指標			全方策による	生徒質問紙「学校へ行くのは楽しいです。」	100%	84.9 %	78.9 %	78.9 %	C		○				

【自己評価】

A:100% (目標達成)

B:80 ≤ (ほぼ達成) < 100

C:60 ≤ (もう少し) < 80

D:(できていない) < 60

【外部評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。

ハ:わからない

